

アルケイアー記録・情報・歴史―

第一〇号 二〇一六年三月 九五―一〇八頁

南山アーカイブズ

特集Ⅱ 「展示を利用した自校史教育の可能性」

小学校における展示活用の可能性

水越建太

南山大学附属小学校

Possibilities of the Use of Museum Exhibits in the Elementary School Classroom

Nanzan Primary School

MIZUKOSHI Kenta

Archeia: Documents, Information and History
No.10 March, 2016 pp.95-108
Nanzan Archives

- 一 本校における「自校教育」の実際
 - (一) 本校の教育とのかかわり
 - (二) 宗教に時間における「自校教育」の取り組み
 - (三) 保護者会わかみどりの活動
- 二 展示活用の可能性
- 三 課題

小学校における展示活用の可能性

水越建太

わたくし、南山大学附属小学校の水越と申します。よろしくお願いいたします。

お配りしたレジュメにそってお話しさせていただきます。今回、わたしからお話しさせていただきますのは、「小学校における展示活用の可能性」と題しまして、南山アーカイブズの史料並びに展示室を初等教育段階にある子どもたちが活用することで、どんな学習ができるのか、その意味や、活用するためにはどうすればよいのか、その手立てや、そこに行くまでの課題などについてお話しさせていただこうと思います。

まず、第一章として、本校で実際に行っている「自校教育」、「自校教育」という言葉が適切なのかは分かりませんが、今実際に行っている教育活動の中で、アーカイブズにかかわるもの、学園史料をもとに行っているものについてご紹介させていただきます。その後、第2章といたしまして、今後の授業での展示活用の可能性として、いくつかの例をご説明させていただきます。

一 本校における「自校教育」の実際

それでは、はじめに、本校での「自校教育」の実際についてのお話をいたします。本校の南山大学附属小学校は大変珍しい歴史を経ております。まず、一九三六年に南山小学校がライネルス神父によって設立されました。しかし、当時は戦時体制に突入せんとする難しい時代でしたので、五年後の一九四一年に、南山小学校は閉校となりました。その後、学園には小学校が存在しない状況が長い間続いておりましたが、七年前の二〇〇八年、南山大学附属小学校が、旧南山小と同じ場所に設置・開校となりました。わたしは、縁あって小学校設立準備委員として小学校設立に携わることができましたが、その際に、新たな小学校をつくるという意識ももちろんありました。が、小学校の「復活」という意識も強くあつたように思います。

(一) 本校の教育とのかかわり

この「復活」を意識したとと密接にかかわるのが、旧南山小学校の教育方針の「真教育¹⁾」です。旧南山小は大正自由教育運動の大きな流れを汲んでいました。その児童中心の教育であつたり、教え込みではなく学ばせる教育であつたりする部分を大切にしようと、現南山小の開校初年度から教員の間で合言葉のように大切にされていきました。これは、やはり、今の南山小学校と、旧南山小とをつなぐ重要な役割をアーカイブズの史料が担っていたといえます。

「真教育」の次は、本校のクラス名についてです。本校は一学年三クラスですが、一般的な一組二組という番号のクラス名ではなく、「ヤンセンクラス」、「ライネルスクラス」、「パツヘクラス」と名付けられています。この意



図2 六年生の多治見での墓参



図1 三年生の多治見での墓参

図として、南山の歴史を意識したクラス名にすることで、無意識的に、また日常的に「南山」に触れる環境をつくり、「南山ファミリー」の一員として、南山への愛着やアイデンティティ、帰属意識を育むことを願っています。開校当時は多少違和感がありました。不思議なもので一か月もすればすぐにあたりまえのものとして本校に溶け込んでいきました。

本校にとって、このヤンセン、ライネルス、パッへの三名の神父は、子どもたちにとって大変重要な存在となっております。

本校では、一年生から六年生まで毎年宿泊学習を行っており、本校の教育目標の実現を目指すなかで非常に重要な位置を占めている行事です。その中で、三年生では、多治見修道院に宿泊しています(図1)。陶芸体験や近隣の寺院での座禅体験も行ったりしますが、メインの活動の一つは、神父様たちが昔祈っていた場所で自分たちも祈るという意味でミサの体験、そして、もう一つは、ライネルス神父とパッへ神父のお墓参りです。子どもたちは墓前で、今まで南山小で楽しかったことやがんばったことをご報告したり、見守ってくださいに感謝の気持ちを伝えたりします。

その後、最終学年の六年生の宿泊学習でも足を運びます(図2)。実際の宿泊学習の行先は軽井沢なのですが、最終日に名古屋へ戻ってくる際に多治見に立ち寄り、お墓参りをします。その際には、卒業する自分たちが、今後どんな生き方

をしていきたいか、どんな人間になりたいのかを神父様たちに約束します。レジュメに、ホームとしての多治見修道院と書かせていただきましたが、卒業後、何か壁にぶつかったときなどには、小学校ももちろんですが、ライネルス神父、パツへ神父の眠る多治見が心のよりどころとなるように願っています。

(二) 宗教に時間における「自校教育」の取り組み

次に、本校の宗教の時間に行われている「自校教育」についてご説明します。せっかくですので、実際に低学年で使った資料を用いて、実際に子どもたちに授業で説明したようにやってみたいと思いますので、小学生が理解できるようにするためには、アーカイブズの史料をどのくらいまでかみ砕いで説明したり補足したりしなければならぬか雰囲気がよくわかると思います。

「わたしたちのクラス名」という授業です。三年生の宿泊学習に対する事前学習として行ったものです。お三方のライフストーリー、伝記のような仕立てになっております。たくさん写真史料が出てまいります。アーカイブズに保管されている史料を教材として活用しています。それでは、始めます。

南山小学校には、他の学校にはない特別なことがありますね。そのうちのひとつがクラスの名前です。ヤンセン・ライネルス・パツへ、これらがみんな、神父様たちの名前であることを知っていましたか。今日は、その一人ひとりの神父様が、どんな方だったのかを、学んでいきましょう。

ヤンセン神父様の名前は、アーノルド、といました。ヤンセンは苗字です。皆さんがよく知っている西脇先生も、教会では西脇神父様、と呼ばれます。ヤンセン神父様は、一八三七年、オランダに近いドイツのゴッ

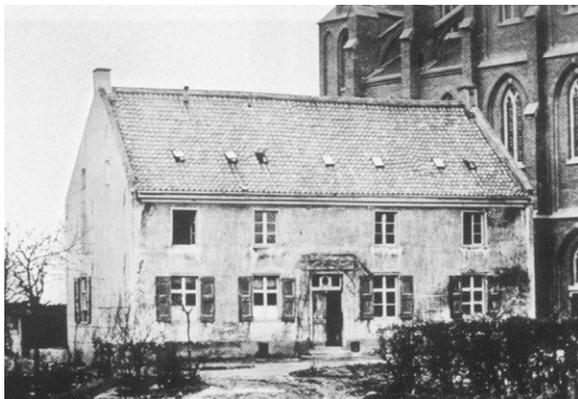


図3 最初の神学校となった宿屋

ホという小さな町に生まれました。高校の先生をして働いた後、神様のために働きたいと思って、神父様になったのです。

ヤンセン神父様は、とてもよくお祈りをするし、よく働く神父様でした。大好きなイエス様のことをドイツだけではなく、世界中の人々に知ってもらいたくなって、仲間たちに協力をしてもらおうと考えたのです。

そこで、世界中に神父様や修道者を送って神様のことを伝えてもらうための、家を買いました。お金がなかったので、最初はこんなに小さな家でした(図3)。これを、聖ミカエル宣教神学校といいます。

聖ミカエルは大天使の名前です。天使に助けられて、神学校はやがてこんなに大きな学校になりました。

宣教、というのは、「神様の言葉を、世界中に伝える」という意味です。神学校とは「神父様になるために神様のことや世界のことを勉強する学

校」という意味です。

世界中に神様のことを伝えたいと思った人たちが、たくさんこの神学校に集まったので、聖ミカエル神学校はどんどん大きくなりました。

ヤンセン神父様は、この神学校でたくさんの方の宣教師を育てました。

そして、皆さんの知っているライネルス神父様は、遠いドイツという国から、この日本へ宣教にやって来た

のです。

ライネルス神父様は、最初の「南山中学校」や「南山小学校」をつくりました。でもその時代に戦争がおきてしまったので、ライネルス神父様がつくった南山小学校は五年しか続けることができませんでした。学校をつくったりすることを、「創立する」といいます。

学校を創立するためにはお金が要りますから、ライネルス神父様はよく外国まで出かけて働き、一生懸命募金を集めてくださいました。左端に写っているのが、ライネルス神父様を名古屋駅に迎えに来たパツへ神父様です（図4）。

これはライネルス神父様やパツへ神父様が使った机です（図5）。机の上には、ライネルス神父様のお父さん、お母さんの写真が飾ってありますね。

ライネルス神父様は、皆のためによくミサを捧げてくださいました。ミサは、キリスト教で一番大切な感謝の祈りです。これはみんなミサで使うものです。右にある金色のグラスのようなもの、なんというか知っていますか？カリスです。この中に、ぶどう酒を入れます。その隣にある金色のお皿には薄くて丸いパンのようなホスタアを置きます。今度の宿泊学習で、皆さんもミサにあずかりますから、よく



図5 ライネルス神父やパツへ神父が使用した机



*Seid edel, fromm und gut.
Joseph Rinaldi*

図4 ライネルス神父を名古屋駅に迎えに来たパツへ神父

見ておいてくださいね。そしてこの十字架は・・・どこかで見たことがありませんか。そう、ライネルス神父様が首からかけていた十字架です（図6）。

次に、パツへ神父様について紹介しましょう。パツへ神父様は、今のポーランドという国で生まれました。ライネルス神父様と同じで、宣教師として、ヤンセン神父様から日本に送られて来たのです。

パツへ神父様は英語の先生でした。一生懸命ライネルス神父様を助けて、南山中学で教えたり、ボーイスカウトの団長や南山中学、高校の校長先生もしたりしました。

パツへ神父様は、南山大学も創立しました。ところでみなさん、ライネルス神父様が創立した、昔の南山小学校をみてみたいですか。

これが七五年前、丘の上に建てられた南山小学校です（図7）。この入り口に誰かいますよ。よく見てくださいね。

入り口に子供たちと先生方が立っておられますね（図8）。一番初めの小学校は先生が六人、生徒は八二人いたそうです。

その頃の小学生が描いた絵です。



図6 ライネルス神父が使用した品々

これはさつき見た小学校の入り口ですね。昔は玄関に鯉のぼりが飾られたことがわかります。今はどこですか？——そうですね、グラウンドで泳いでいます。

そして七五年後、皆さんの新しい南山小学校として復活しました。

聖アーノルド・ヤンセン神父様のところで勉強をして、遠いドイツやポーランドから、神様のことを伝えるためにやってきた宣教師、ライネルス神父様とパツへ神父様の後をついで、今は校長先生やたくさんの先生方がこの南山小学校で教えてくださっています。子どもたちが、人間の尊厳のために、心から喜んで働くことのできる人に育っていくために。

と言った形で授業をしています。難しい言葉は簡単な言葉で説明したり、細かいことは省略したりしながら、小



図7 旧南山小学校



図8 旧南山小学校 入学式後のスナップ（昭和11年4月）

二 展示活用の可能性

引き続き、今後、実際の教科教育の中で、アーカイブズの展示活用の可能性を考えてみました。特に生活科や社会科の授業での活用が想定されます。

まず、二年生活科のちいきたんけん、三年社会科の「学校のまわり」という単元です。この二つは、ともに学校のまわりを探検する学習が中心になります。生活科は、地域への愛情を深めるのがねらいです。「南山のまちつてすてきだな」と子どもたちが思っています。その一つとして、貴重なライネルス館の建造物自体との出会いをはじめ、実際にこの建物の中に古いものが展示してある様子を見ることは非常に価値があることだと思います。三年社会科は、生活科ではなく社会科ですから、地図学習の始まりという意味合いが加わります。地図上に博物館の地図記号がライネルス館に該当するかどうかはわかりませんが、学校の周りにある古い建物として非常に重要なランドマークとして子どもたちはとらえるようになります。



図10 夏休みの記録

次に、三年三学期「古い道具と昔のくらし」という学習でも活用の可能性が考えられます。この単元は、おじいさんおばあさんが子どもだった頃、お父さんお母さんが子どもだった頃、そして今の三つの時間軸の暮らしの違いや変化の過程を学んでいくことが多いのですが、その代わりに、「旧南山小の子どもたちのくらし」と「現南山小の子どもたちのくらし」を比較してみることが可能性として考えられます。展示室には、当時の児童がかいた絵日記や夏休みの記録(図10)がございますので、これらを活用することで面白い授業ができるかもしれ



図11 迷彩色のライネルス館

三 課題

最後に、アーカイブズ活用の際しての課題を述べさせていたでいて、終わりにしたいと思います。小学生であるがゆえの課題が結局のところ大きいです。一番は史料がそのままでは理解できないため、理解できる形にしてあげることが必要不可欠です。また文字史料よりも写真史料やモノ史料が分かりやすいと考えます。

次にアーカイブズの距離と広さです。小学校から遠くはないですが、子どもの足では往復二〇分かかります。

ません。

最後に六年生の社会、「長く続いた戦争と人々の暮らし」の学習ではかなり利用価値がありそうだと感じます。例えば、この写真(図11)を教材化しようと思います。子どもたちがこの写真を見たときの反応を想像すると、「これはなんだろう」「建物のようだ」「でもどっかで見たことがあるぞ」「ライネルス館だ」「でもなんかようすが変だぞ」「模様がある」「どうしてだろう」このような流れで、子どもたちが学習問題を自分たちで立てることができるのではないかと思います。この写真のほかにも、軍事教練をする南山生などの写真も教材化しやすいと思いました。

使いやすいのは、この写真の場所が南山であることを表しているものであること、そして戦時中であることを読み取ることのできる欲張りな史料です。地域教材以上の身近な「自校教材」となりえます。

四十五分の授業時間の中ではなかなか難しいので、時間割の調整をする必要を考えなければなりません。史料をお借りして教室で活用させていただく方法も現実的でよいかと思えます。

三つ目に、カリキュラムとの関連です。宗教の時間は比較的学園史料とつながりがあるのでよいですが、社会科の現行のカリキュラムの中にどう位置付けていくのかは、今後の実践の積み重ねの中からよりよい活用方法を探っていく必要があります。

以上で報告を終わります。

註

(1) 南山小学校の学校案内の中に書かれている。「どの児童にも隠れた宝石のやうな獨創性や眠つた能力が潜んであります。此の児童一人一人の獨創性を見つけ能力を呼び醒まし、それに基づく彼等の自發的な活動を中心として、新しいもの、發見、未知の世界への探求へと導くやうな教育を根

本に致します。従つて教へ込む教育ではなくて学ばせる教育であります。児童自ら觀察し、実験し、比較し、思考して、自ら歸結に達し、原理を發見するやうに仕向ける教育なのであります。」